

現状・見通しともに改善するも依然として厳しい状況

鈴鹿商工会議所
中小企業相談所

(総括)

鈴鹿商工会議所では、鈴鹿地域の企業の業況と今後の見通し、問題点等を把握するため、会員企業を対象に毎年1月と7月に景気動向調査を行っている。このたび2020年下期(7月～12月期)の調査結果がまとまった。

全体の景気動向として、前期調査(2020年1月～6月期)と比較すると、現状DI値は△53.9となり7.5ポイント、また見通しDI値も△55.1と17.2ポイントの改善を示した。前期調査よりDI値は改善しているものの、依然として低い状態で推移しており、いずれの業種でも新型コロナウイルス感染症による影響が深刻であることが窺える。業種別に見ると、とりわけ飲食業のDI値が低く、外出を自粛し人との接触を控えようとする消費者の行動が影響しているものと見られる。小売業・飲食業では、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントの中止や宴席等が無く利益が無い等のマイナスな意見が多く見られる一方で、一部の製造業では外出自粛の影響によりEC(=通信販売)が伸びた、コロナによる特需で売上が増加したとのプラスな意見もあった。また、サービス業では昨年7月に開始されたGoToトラベルで宿泊者が増加したという宿泊業者も見られた。

総務省が発表した2020年の家計調査によると、2人以上世帯の消費支出は実質で前年から5.3%減少した。2020年の単月で見ると、10月は前年同月比の実質で1.9%増、11月も1.1%増と2ヶ月連続の増加、12月は一転して△0.6%と減少したものの、消費者の購買意欲は徐々に戻りつつあるように思われる。しかし、事業者からは「受注が入っていない」(建設業)、「コロナが収束しないと営業活動が難しい」(小売業)、「回復の兆しが無い」(飲食業)との声が聞かれ、今後の見通しは厳しい。また、見通しDI値は△55.1であり、現状DI値と比較して1.2ポイントの悪化を示していることから今後の見通しは悪化するものと推察される。

(対象 1,100社 回答企業 336社、 回答率 30.5%)

DI値(ディフュージョン・インデックス)

DIとは、景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動(強気や弱気など)を知るためのものである。景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及がない限り、「増加」「好転」したとする企業から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差引いた値である。

●現状の景気について (図-1・3 参照)

「良い」「やや良い」は9.5%(前期7.4%:前年同期19.4%)、「やや悪い」「悪い」は63.4%(前期68.8%:前年同期37.8%)となった。

景気動向を示すDI値は、△53.9(前期△61.4:前年同期△18.4)と前期より7.5ポイント改善、前年同期より35.5ポイント悪化している。

業種別では、製造業DI値△65.2(前期△67.4:前年同期△32.5)、建設業DI値△42.7(前期△53.7:前年同期4.3)、卸売業DI値△28.6(前期△53.9:前年同期△60.0)、小売業DI値△65.9(前期△70.7:前年同期△48.9)、飲食業DI値△83.3(前期△86.6:前年同期△31.3)、サービス業DI値△41.7(前期△58.1:前年同期8.9)となった。

●今後の景気見通しについて（図－2・3 参照）

「良い」「やや良い」は、7.1%（前期3.7%：前年同期11.6%）、「やや悪い」「悪い」は62.2%（前期76.0%：前年同期43.4%）となった。

DI値は、△55.1（前期△72.3：前年同期△31.8）と前期より17.2ポイント改善、前年同期より23.3ポイント悪化している。

業種別では、製造業DI値△51.5（前期△80.9：前年同期△47.6）、建設業DI値△49.6（前期△69.7：前年同期△10.6）、卸売業DI値0.0（前期△61.6：前年同期△70.0）、小売業DI値△66.0（前期△70.8：前年同期△42.6）、飲食業DI値△86.7（前期△80.0：前年同期△12.5）、サービス業DI値△54.1（前期△73.2：前年同期△26.7）となった。

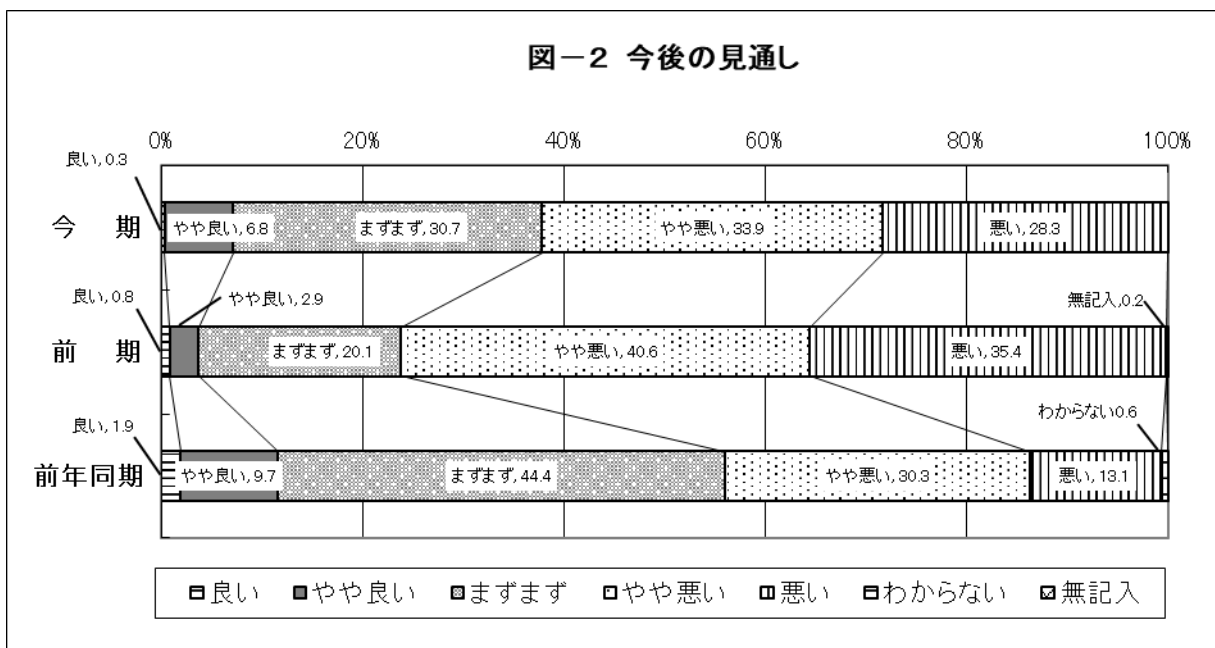
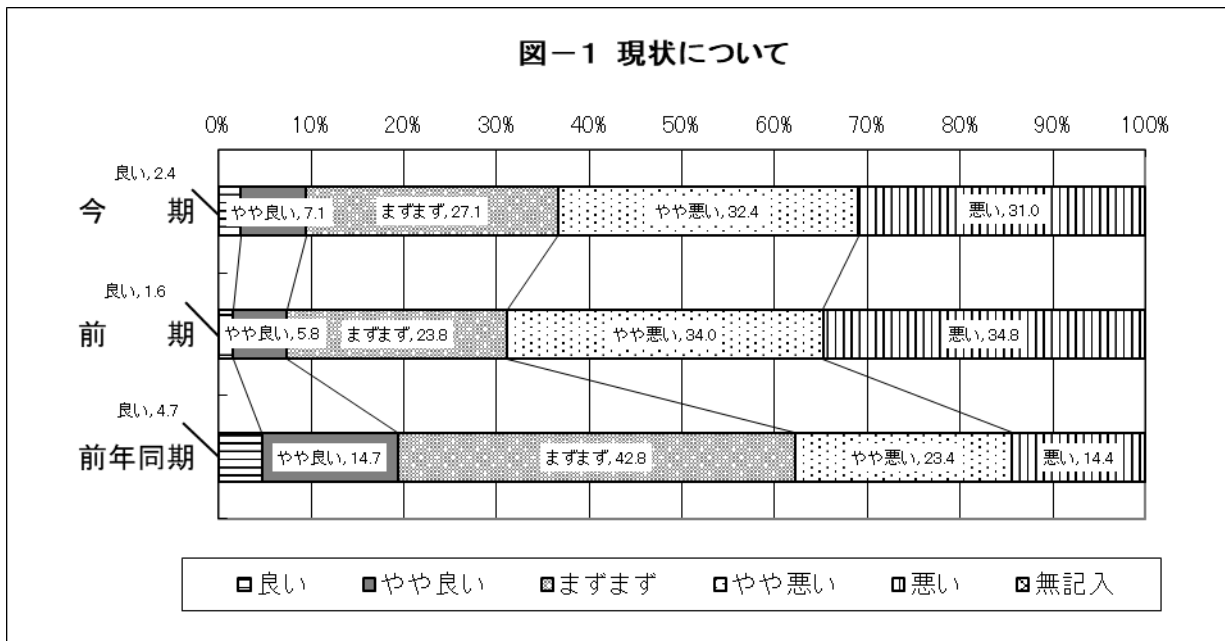
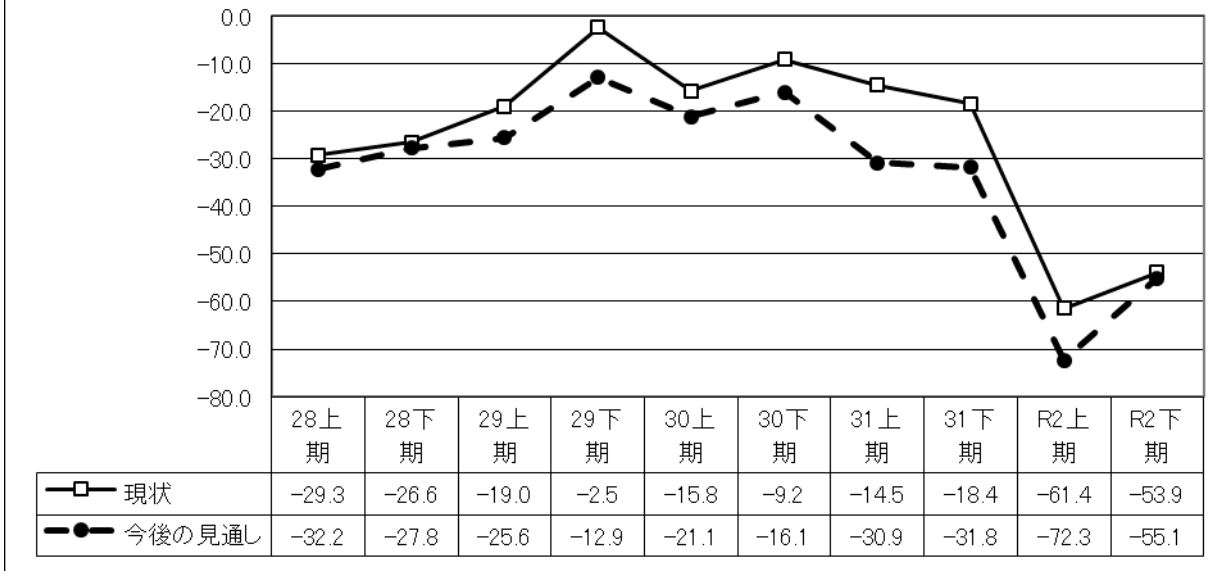


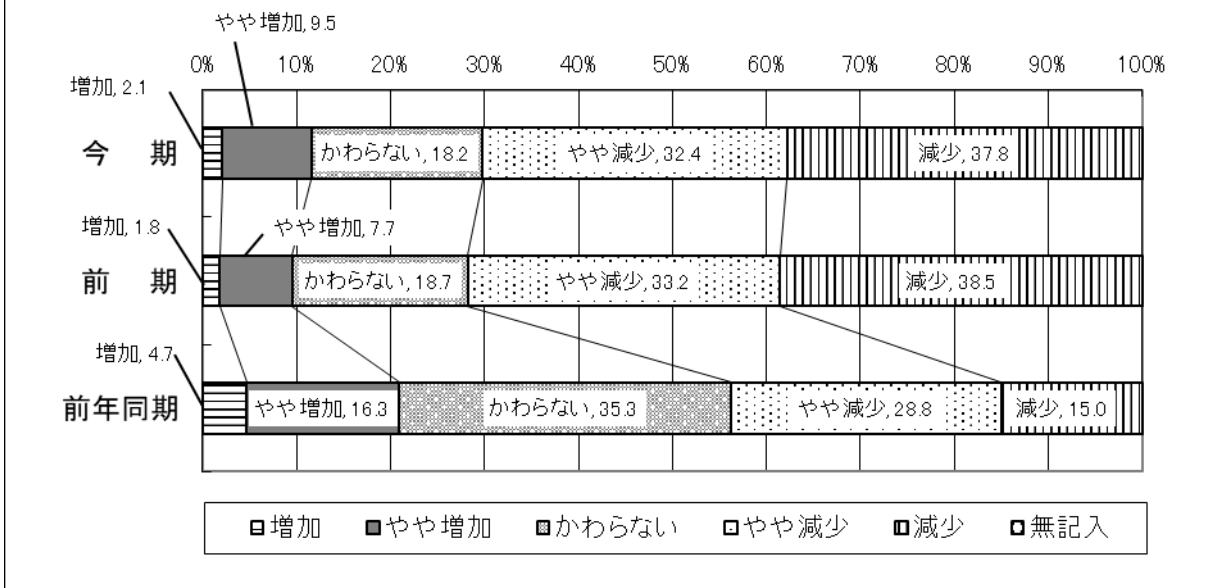
図-3 現状と今後の見通しの推移



●売上状況について (図-4 参照)

「増加」「やや増加」は 11.6% (前期 9.5% : 前年同期 21.0%)、「やや減少」「減少」は 70.2% (前期 71.7% : 前年同期 43.8%) となった。DI 値は△58.6 (前期△62.2 : 前年同期△22.8) と前期より 3.6 ポイント改善、前年同期より 35.8 ポイント悪化している。

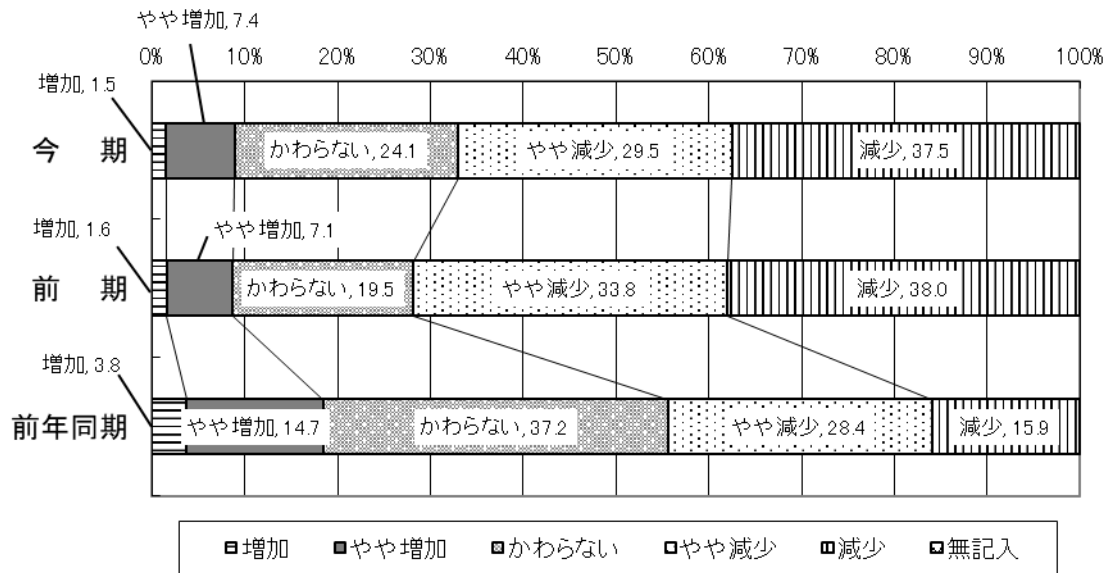
図-4 売上状況



●利益状況について (図-5 参照)

「増加」「やや増加」は 8.9% (前期 8.7% : 前年同期 18.5%)、「やや減少」「減少」は 67.0% (前期 71.8% : 前年同期 44.3%) となった。DI 値は△58.1 (前期△63.1 : 前年同期△25.8) と前期より 5.0 ポイント改善、前年同期より 32.3 ポイント悪化している。

図-5 利益状況



経営上の問題点(上位3位)

(%)

		第1位	第2位	第3位
業 種 別	製造業	売上・受注の停滞減少 (68.2)	人材育成 (24.2)	設備店舗の狭小老朽化 (21.2)
	卸売業	売上・受注の停滞減少 (57.1)	競争激化 (42.9)	設備店舗の狭小老朽化 (14.3)
	小売業	売上・受注の停滞減少 (67.9)	競争激化 (26.4)	設備店舗の狭小老朽化 (22.6)
	建設業	売上・受注の停滞減少 (50.4)	人手不足 (43.6)	人材育成 (30.8)
	飲食業	売上・受注の停滞減少 (73.3)	設備店舗の狭小老朽化 (23.3)	人手不足 (16.7)
	サービス業	売上・受注の停滞減少 (45.8)	競争激化 (29.2)	設備店舗の狭小老朽化 (25.0)
	交通運輸業	設備店舗の狭小老朽化 (66.7)	売上・受注の停滞減少 競争激化 人材育成 (33.3)	(0.0)
	その他	売上・受注の停滞減少 (63.6)	製品・商品単価の下落 人手不足 人材育成 人件費以外の経費増加 (18.2)	過剰人員 借入難 設備店舗の狭小老朽化 人件費の増加 税務・経理 (9.1)
総合	売上・受注の停滞減少 (58.3)	人手不足 (23.2)	人材育成 (19.6)	
前年同期	売上・受注の停滞減少 (37.8)	人手不足 (37.2)	人材育成 (24.1)	

地場産業—自動車関連

●現状の業況と今後の業況見通しについて

a) 現状の業況について

「良い」「やや良い」は 14.3% (前期 7.1% : 前年同期 15.7%)、「やや悪い」「悪い」は 64.3% (前期 78.6% : 前年同期 53.0%) となった。DI 値は $\Delta 50.0$ (前期 $\Delta 71.5$: 前年同期 $\Delta 37.3$) と前期より 21.5 ポイント改善、前年同期より 12.7 ポイント悪化している。

b) 今後の業況見通しについて

「良い」「やや良い」は 17.9% (前期 3.6% : 前年同期 9.8%)、「やや悪い」「悪い」は 53.5% (前期 78.6% : 前年同期 58.8%) となった。DI 値は $\Delta 35.6$ (前期 $\Delta 75.0$: 前年同期 $\Delta 49.0$) と前期より 39.4 ポイント、前年同期より 13.4 ポイント改善している。

●売上状況と今後の見通しについて

a) 売上状況について

「増加」「やや増加」14.3% (前期 3.6% : 前年同期 15.7%)、「やや減少」「減少」は 78.6% (前期 85.7% : 前年同期 56.8%) となった。DI 値は $\Delta 64.3$ (前期 $\Delta 82.1$: 前年同期 $\Delta 41.1$) と前期より 17.8 ポイント改善、前年同期より 23.2 ポイント悪化している。

b) 売上の見通しについて

「増加」「やや増加」は 17.9% (前期 3.6% : 前年同期 7.8%)、「やや減少」「減少」は 53.6% (前期 78.6% : 前年同期 53.0%) となった。DI 値は $\Delta 35.7$ (前期 $\Delta 75.0$: 前年同期 $\Delta 45.2$) と前期より 39.3 ポイント、前年同期より 9.5 ポイント改善している。

●利益状況について

「増加」「やや増加」は 14.3% (前期 7.1% : 前年同期 15.7%)、「やや減少」「減少」は 71.4% (前期 67.9% : 前年同期 58.8%) となった。DI 値は $\Delta 57.1$ (前期 $\Delta 60.8$: 前年同期 $\Delta 43.1$) と前期より 3.7 ポイント改善、前年同期より 14.0 ポイント悪化している。

■お問い合わせ

鈴鹿商工会議所中小企業相談所

TEL : 0 5 9 - 3 8 2 - 3 2 2 2

FAX : 0 5 9 - 3 8 3 - 7 6 6 7